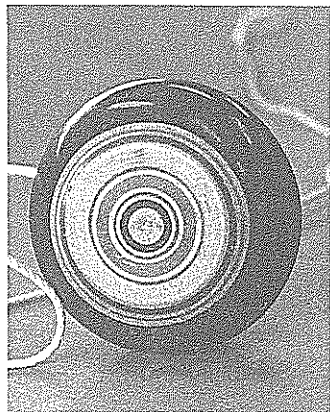




### これはなんでしょう？



◎第202回親子クイズの答えはビー玉でした。お便りの中から皆さんの思い出の一部をご紹介します。

○川田久子さん(岡豊町)

私の小学生のころはこれをピン玉と言ひ、運動場の隅へ五個の小さな穴をあけて、そこへ順序よく指ではじいて入れるゲームが流行で、あちこちの小さな穴ぼこだらけが思い出されます。

○藤本貴子さん(廿枝)

幼い日々、姉と遊んだあのビー玉が今も私の机の上の透明のコップの中らじつと私を見ている。

○吉本佳代さん(立田)

私の子供のころは、男の子の持ち物といえ「ばん」とこれでしたわ。

○奏泉寺太一さん(岡豊町)

ぼくの家にもビー玉があつて、弟が遊んでいます。

○松岡敬子さん(岡豊町)

幼い時、ラムネを飲んだ後、どうしてビー玉が最後に出て来ないのか不思議でたまりませんでした。どうしてもラムネの中のそれが欲しくて、逆さにしたり思いきって振ったりあれこれついでに結局どうしても取り出せないものをどうやってこのビンの中に入れたんだらうかと子供ながらに悩んだりして。今思い出すと、思わず笑ってしまいます。

### 第202回当選者発表(応募総数19通)

松岡敬子(岡豊町)、宮地豊茂(前浜)、川田久子(岡豊町)、山田由美子(東崎)、谷合昭彦(大埴)

◎ヒント 犬の散歩やブランコなどの技もあります。

■しめきり 3月20日

■あて先 〒783 南国市大埴甲三三〇一

南国市役所広報委員会 親子クイズ係

■答えのハガキには必ず、住所、氏名、年齢、職業を書いてください。

■賞品 正解者の中から抽選で五人に図書券を進呈。

## あゆみ 母と子のつながり

中央家庭教育学級専任講師 田植 静代

次の詩は私が十五年前に受け持っていた五年生の北村君の詩です。

お母さんすき

僕のきらいな具は、食べさせてくれないのですき。でもときどき、おこつて食べさせる。

いつでもここにこして、機嫌の悪いときには、ふうーっという顔をして、非常に変化がわかる。

慰めるときと楽しくするときが、区別できてすき。

ときには悪い顔をしていても、機嫌がいいよと、僕に心配させないよ

うに気をつけてくれる。優しいからすき。

いつでも楽しいことがあつたら、僕を呼んで言ってくれるのですき。

なんでも質問すると、答えてくれるのですき。

勉強によつてはくわしいが、遊びはくわしくない。けれどすき。

いつも傑作なことをいうので、おもしろくてすき。

悪いくせ、すぐものを忘れる。

こんなお母さんに、なつてほしいな。身体が丈夫でかくかくしていい

い、あまりでぶじやないお母さん。今のお母さんが、一番すき。

私はこの詩が大好きです。この詩の中には微妙な子供の心の動き、親への観察、小さくても子供を一人の人間として認めてくれる母、子供の話を聞いてくれる母、精神的な深いつながりを持った母と子の様子を深く感じるからなのです。

特に北村君がお母さんに対して、慰めるときと楽しくするときと区別できるからすきの、子供がお母さんを慰める心遣い、慰められているお母さんの様子等、想像するだけでもほほえましいと思うのです。またときには悪い顔をしていても、機嫌がいいよと、お母さんは僕に心配させないようにしてくれているのだと観察しているのです。だから、なんと優しいのだろうと、母の優しさに感動しています。

また楽しいことも悲しいことも僕を呼んで話してくれ、相談してくれるのです。親子間に平等相があります。けれどときどき、好き嫌いは親としてしかって食べさせ、親と子の差異相があります。

母と子のつながりはこのように、精神的なつながりこそ、一番たいせつなことではないでしょうか。